
もしもカービィがマリオ(代行)になったら

紀葉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

もしもカービィがマリオ（代行）になったら

【Nコード】

N0567Y

【作者名】

紀葉

【あらすじ】

カービィがマリオのゲームの主人公だったらこんな感じかな？というのを書いたものです。カービィのキャラが崩壊していると思うので注意。

（前書き）

マリオの代わりに冒険行ってきた。

カービィ「え？僕が？」

今回マリオお休みだから。

カービィ「はあ。」

ちなみにスーパーマリオブラザーズだから。

カービィ「ふむ…つまりお姫様を助ければいいんでしょう？」

そういうこと。じゃあいつてきて。

カービィ「あいあい。」

そんなこんなでキノコ王国に到着。

カービィ「さて、サクサク行くとしますか。」

ちよつと進むと、

クリボー「！？なんだ貴様！？」

クリボーに遭遇。

カービィ「あゝ…こいつ敵だっけ。」

クリボー「よくわからんがクッパ軍団に刃向かうつもりだな…ならば死ねえええ！」

カービィ「しよーがない、倒すか。」

クリボーが突進してくると同時に、
カービィは口を開けて、
吸い込みはじめた。

クリボー「え、ちょ、ぎゃああああ！」

パクッ

ゴクン

カービィ「…なんだスカか。ツマンネ。」

スカだったみたいです。

カービィ「あ、このブロックってアイテム入ってるんだよね…。」

そういつて？ブロックを叩くと、キノコが出てきた。

カービィ「あ、キノコだ！」

すぐに食べた。

カービィ「ウマー。」

体力回復。（減ってないけど。）

カービィ「もうめんどくさいから飛んで行っちゃうか。」

そういつて、ふわふわ飛びながら進んでいった。

クリボー「なんだあのピンク玉！」

ノコノコ「なんか飛んでるぞ！」

そんな声も無視して進み、ゴールに到着。
もちろんてっぺんに掴まった。

カービィ「余裕www」

そりやそうだ、マリオは（そのままの状態じゃ）飛べないし。
こんな具合のハイペースで進んでいき、
早くもラスボス戦。

クッパ「ガハハハ！よく来たなマリ…あれ？」

カービィ「マリオ代行のカービィです。」

クッパ「…まあいいや、カビだかなんだか知らんがぶっ倒してくれ
る！」

ということを言ってる間に、

カービィは飛んで斧のところまで着いた。

クッパ「え、ちょ、待って…。」

カービィ「はい、終わり。」

カービィが鎖を切り、クッパが溶岩の中に落ちた。

クッパ「アッー！」

そして、カービィはピーチのところまで行った。

ピーチ「あら、誰？」

カービィ「マリオ代行のカービィです。」

ピーチ「今回マリオはお休みなの？」

カービィ「そうなんですよ……。」

ピーチ「残念ね……。あ、私を城に連れて行ってくれる？」

カービィ「じゃあこのワープスターに乗ってください。」

ピーチ「ええ。」

ピーチがワープスターに乗った後、カービィも乗った。

ピーチ「じゃあお願いね。」

カービィ「はい。」

こうしてピーチとカービィは城に戻り、キノコ王国に平和が訪れました。

終わり

後でカービィはポップスターに帰りました。

（後書き）

結論：カービィはチート。

マリオがお休みの理由は風邪とかだと思ってください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0567y/>

もしもカービィがマリオ(代行)になったら

2011年11月12日13時19分発行